

部活紹介

I 部体育局陸上競技部 & II 部体育会蹴球部

6月大会日程一覧

団体名	大会	日程	会場
硬式野球部 (神楽坂)	東京新大学野球連盟 3部春季リーグ戦	6月2日(土)10:00~*対駿河台大学	駿河台大学
男子ラクロス部 (野田)	全国ラクロスプレシズントーナメント2012	決勝トーナメント 6月中旬決定	ホテルやまびこ(長野県上田市・菅平高原) 所有グラウンド、他近隣グラウンド
ラグビー部 (野田)	関東理工系リーグ	6月10日(日) *対東京農工大学	東京理科大学グラウンド
陸上競技部 (神楽坂)	第9回 14大学対校 陸上競技大会	6月16日(土)	城山陸上競技場 (神奈川県小田原市)

陸上競技部 track and field club



▲ 準備体操をする部員の方々

6月に入って暖かくなり、体を動かすのに適した季節になってきた。今回我々は東京理科大学I部体育局から今一番活躍している部活を紹介していただき、I部体育局陸上競技部の取材を行った。本学の陸上部は理系大学の中では強豪チームであり、理工学部対抗戦ではいつも優勝争いをしていて、誰もが知っている箱根駅伝予選会にも毎年挑戦している。昨年の8大学対抗陸上競技大会では見事に優勝という輝かしい功績を残した。陸上競技部の部員は30人程で、そのうち1年生は10人程いる。主に原宿

にある織田フィールドで週2回の活動をしており、水曜日は17時30分から約2時間、土曜日は朝から練習を行っている。さらに月1回、II部や野田の陸上競技部との合同練習もある。その合同練習の場所は野田キャンパスであるが、部員たちは毎回意欲的に参加している。取材当日は、5月下旬に行われる関東学生陸上対抗選手権大会の直前だったため、部員達は新木場にある夢の島競技場で調整をかねて普段よりも気合いの入った練習を行っていた。また、その日は練習を始めようとした瞬間に雨が降ってきてし

まったが、理科大生だけでなく他大の学生や高校生も練習に参加しており、雨にも関わらず部員達は真剣な顔でやる気に満ち溢れていた。5月3日には、代々木公園の陸上競技場で四部対抗戦が行われた。これは、理科大の各陸上競技部が集まって行う記録会のようなものだ。選手たちはグラウンドの端でウォーミングアップをし、自分の順番を待つ。走り終わった後には自分のタイムを確認する。普段からの活動の熱心が伝わってくる。試合では本番一本勝負であるため、スタートの瞬間は緊張感が走る。試合ではいかに自分の実力通りの力を発揮できるかが重要だ。

部活動は堅いイメージがあるが実際そのようなことはなく、部員全員が先輩後輩の壁を越えて楽しく活動している。もちろん練習の時は真剣に取り組み、メリハリをつけている。陸上競技は多くが個人競技ではあるが、時にはライバルとして互いの技術を高め合っている。9月には鴻巣で関東理工系学生対抗陸上競技大会や、他2つの大きな大会が行われる。今後の陸上部の活動に期待したい。

東京理科大学II部体育会から「今活躍している部活」としてII部蹴球部の紹介を受け、部長の平清水元宣さんと主将の小林優也さんにインタビューを行った。6月8日から「UEFA EURO 2012」サッカー欧州選手権」が始まり、7月27日からロンドンオリンピックも開催され、世間ではサッカーに対する関心が高まってきている。そのような中、本学のII部蹴球部はどのような活動をしているのだろうか。

部活と聞けば忙しく厳しいイメージを持つと思うが、「サッカー好きが集まり、いつも楽しい雰囲気です。試合ではいかに自分の実力通りの力を発揮できるかが重要だ。」と2人は語る。

II部蹴球部は、新入生15人を含む部員31人で構成されている。その中には、サッカー経験者だけでなく、大学からサッカーを始めたという部員もいる。他のサッカーサークルやフットサルサークルと兼部している部員も多い。主な練習内容は、3号館屋上で週2回のリフトレーニングやドリブルなどの基礎的な練習、そして学外で月2回のシュート練習や試合形式などの実践的な練習である。このように短い練習時間で内容の濃い練習を行っている。また、II部の学生であるので練習は通常昼間に行われ、そのまま1限の授業を受ける学生も多々いる。合宿は年に3回から4回、最近では3月に茨城の波崎で行った。今後は6月末と9月上旬にも行うことを予定している。普段は楽しい雰囲気であるが、練習が始まると一変し、集中力をもって取り組む。「やる時はやる」をモットーに、練習に向けて気持ちの切り替えを意識している。他大学との交流もあり、早稲田大学や上智大学、大東文化大学のサークルと頻りに練習試合を組み、お互いに技術を高め合っている。

去年の10月末、「新関東フットボールリーグ」が開催された。この大会は18大学からなる総勢48チームが参加し、その運営すべてを学生自身で行う学生最高峰のリーグである。JリーグにJ1とJ2があるように、この大会ではI部、2部、3部の3リーグで構成される。上位リーグの最下位と下位リーグの首位が入れ替わるという仕組みだ。

II部蹴球部は2部リーグに加盟している。3年前までは3部リーグだったが、OBの躍進で2部リーグ昇格を勝ち取ることができたという。OBが成し遂げた功績を受け継ぎ、そして途切れさせないためにも、1年の中で最も重要な大会に向け、練習に力を入れている。去年の大会ではその強い意志が2部リーグ残留を決めた。

また、毎年「理科大杯」という本学のサッカー部とサッカーサークルがすべて参加する大会が行わ

れる。この大会に優勝すると本学を代表し「インディペンデンス・リールグ」、通称「Iリーグ」という関東学生サッカー連盟が主催する大規模な大会への出場権を獲得できる。Iリーグは、各大学から1チームしか出場することができないので、練習試合相手も募集して本学の看板を背負っての試合となる。一昨年は理科大杯で優勝し、この大会への出場を果たしたが、昨年は予選で惜しくも敗退し出場権を獲得することができなかった。

今年10月から開催される「新関東フットボールリーグ」に向け、II部蹴球部は日々練習に励んでいる。「今後の目標はやはりI部リーグ昇格ですね」と、小林さんは力強く話してくれた。現在、練習試合相手を募集しており、部活内でも技術や意識をさらに高めている

今年10月から開催される「新関東フットボールリーグ」に向け、II部蹴球部は日々練習に励んでいる。「今後の目標はやはりI部リーグ昇格ですね」と、小林さんは力強く話してくれた。現在、練習試合相手を募集しており、部活内でも技術や意識をさらに高めている

今年10月から開催される「新関東フットボールリーグ」に向け、II部蹴球部は日々練習に励んでいる。「今後の目標はやはりI部リーグ昇格ですね」と、小林さんは力強く話してくれた。現在、練習試合相手を募集しており、部活内でも技術や意識をさらに高めている

本学には各キャンパス合わせて80を超える部活が存在する。その一つ一つの団体が長い歴史を持ち、それぞれが独自の雰囲気を作り上げてきた。それらの団体は私たちの知らないところで日々活動し、大会などに参加している。彼らは本学の看板を背負い、時には輝かしい功績を残しているが、個々の部活の活動を知る機会ほとんどない。特に神楽坂キャンパスは都心に位置していることもあり、運動できるスペースに限られている。そのため課外活動がダンスを終えたばかりの新生活や運動にあまり興味のない学生は、大学の部活のイメージは想像しにくいものだろう。本学の部活は何を目標とし、どのような活動をしているのだろうか。普段あまり焦点の当たらない運動系の部活の実態を探るべく、今回我々は神楽坂キャンパスの部活を統括している東京理科大学I部体育局・II部体育会に今一番活躍している部活を紹介してもらい、I部体育局陸上競技部・II部体育会蹴球部に取材を行った。

蹴球部 soccer club

容の濃い練習を行っている。また、II部の学生であるので練習は通常昼間に行われ、そのまま1限の授業を受ける学生も多々いる。合宿は年に3回から4回、最近では3月に茨城の波崎で行った。今後は6月末と9月上旬にも行うことを予定している。普段は楽しい雰囲気であるが、練習が始まると一変し、集中力をもって取り組む。「やる時はやる」をモットーに、練習に向けて気持ちの切り替えを意識している。他大学との交流もあり、早稲田大学や上智大学、大東文化大学のサークルと頻りに練習試合を組み、お互いに技術を高め合っている。



▲ ミーティングの風景

今回紹介したI部陸上競技部・II部蹴球部のように、本学の学生が見えないところで多岐にわたる様々な活動をしている。今後も様々な部活が本学の看板を背負って、大会に出場するだろう。輝かしい功績の裏には地道な努力がある。彼らは、学業と同じように部活を大学生活の一部として日々を送っている。これから多くの部活が、葛飾キャンパス新設に伴う部員の減少、部室の移転などの様々な問題に直面する。東京理科大学I部体育局・II部体育会はそのような対策を行うのだろうか。今後は本学の部活の動きに期待するとともに、大会などの様々な行事を応援していきたい。これらの部活の輝かしい功績が、東京理科大学の知名度を上げ、本学のさらなる発展につなげてくれるだろう。